

Contents:

1. 研究代表者あいさつ
2. 周産期研究事業支援室の紹介
3. 研究動向と今年度の予定
4. 施設紹介

1. 研究代表者あいさつ

研究代表者

東京女子医科大学母子総合医療センター

楠田 聡



ご存じのようにわが国のハイリスク児の救命率は高く、わが国の周産期医療水準は世界的にも高く維持されていると言えます。しかしながら、予後には施設間差があること、救命された児のなかに神経学的障害を持つことがあることも事実です。すなわち、わが国の周産期医療には、まだまだ改善の余地があります。その意味で、本研究は、日本の周産期医療の水準をさらに向上させるために必須のものと考えております。研究に参加することは決して容易ではありません。参加施設の皆さんには普段の診療に多くの時間を割かれている上に、さらに研究に参加する負担が増していることは十分に承知しています。しかしながら、この研究に参加することで、将来のわが国の周産期医療を変えることができれば、これほど価値のあることは他にありません。大変注目度の高い研究です。是非皆さん方のご協力を得て成功させたいと考えておりますので、宜しくお願いします。

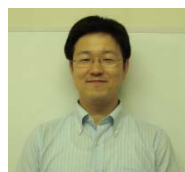
2. 周産期研究事業支援室の紹介

平成23年度より本研究の運営のために、東京女子医科大学に周産期研究事業支援室が設置されました。三ツ橋偉子、西田俊彦、佐々木八十子の3名で立ちあがった支援室ですが、現在では、事務の松田も加わり、4名がこの研究に専属で従事しております。

週1回、内山温先生や森臨太郎先生が加わって、支援室会議が開かれ、各々の進捗状況の報告や相談をしながら、研究は運営されております。



三ツ橋偉子



西田俊彦



佐々木八十子

3. 研究動向と今年度の予定

<研究参加施設>

公募により40施設が本研究に参加し、そのうち19施設が介入群、21施設が対照群となっています(右表)。本研究の介入(周産期医療質向上プログラム)は介入群がペア施設となって、相互に介入し合う形式をとっています。

<症例登録状況>

2012年2月12日より症例登録が開始され、2012年6月31日現在、282名を登録していただいております(右図)。

お忙しいと思いますが、引き続き、症例登録、宜しくお願い申し上げます。

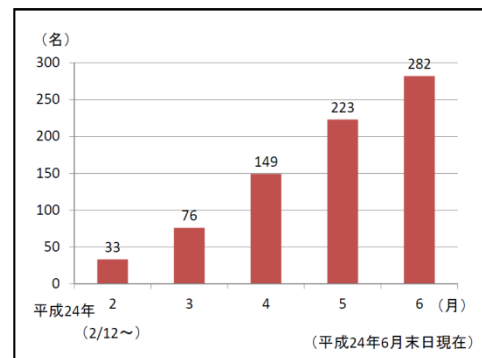
<ワークショップ開催>

平成24年2月11日より6月3日にかけて、介入群19施設においてワークショップを開催しました(写真)。

表 研究参加施設一覧

青森県立中央病院	名古屋第二赤十字病院
秋田赤十字病院	独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター
新潟大学医歯学総合病院	日本赤十字社 伊勢赤十字病院
新潟市民病院	日本バプテスト病院
長野県立こども病院	高槻病院
信州大学医学部附属病院	公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院
埼玉医科大学総合医療センター	大阪府立母子保健総合医療センター
川口市立医療センター	愛染橋病院
日本大学医学部附属板橋病院	市立豊中病院
独立行政法人国立成育医療研究センター	大阪府済生会吹田病院
聖路加国際病院	和歌山県立医科大学附属病院
山梨県立中央病院	鳥取大学医学部附属病院
独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院	倉敷中央病院
浜松医科大学医学部附属病院	国立病院機構岡山医療センター
聖隷浜松病院	広島県立広島病院
静岡県立こども病院	広島市立広島市民病院
石川県立中央病院	高知県・高知市企業団立高知医療センター
岐阜県総合医療センター	久留米大学病院
福井県立病院	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター
名古屋第一赤十字病院	熊本市市民病院

図 症例登録状況



信州大学医学部附属病院



愛染橋病院



名古屋第一赤十字病院



大阪府立母子保健総合医療センター



<介入施設群における取り扱い分野>

本研究では、極低出生体重児における死亡や後遺症に影響を及ぼす5つの専門分野を抽出しました。5つの専門分野というのは、次の5つになります:①新生児蘇生法、②呼吸管理と新生児慢性肺疾患の予防と治療、③未熟児動脈管開存症の予防と治療、④栄養管理、⑤新生児感染症の予防と治療。各施設毎にデータ分析を

行い、取り組むべき分野を2つ選出しました。それぞれは、新生児蘇生法 4施設、呼吸管理と新生児慢性肺疾患の予防と治療 12施設、未熟児動脈管開存症の予防と治療 9施設、栄養管理 1施設、新生児感染症の予防と治療 11施設でした(表)。最も多かった組み合わせは、②呼吸管理と新生児慢性肺疾患の予防と治療と⑤新生児感染症の予防と治療で、8施設でした。

表 介入施設群における介入分野

分野	施設数
新生児蘇生法	4施設
呼吸管理と新生児慢性肺疾患の予防と治療	12施設
未熟児動脈管開存症の予防と治療	9施設
栄養管理	1施設
新生児感染症の予防と治療	11施設
組織体制	1施設

<今年度の予定>

2012.9.8 周産期母子医療センターネットワークデータベース会議(大手町)

4. 施設紹介(福島県立医科大学附属病院)

福島県立医科大学附属病院は、昨年11月に本研究の3番目の試験介入施設としてワークショップを開催させていただきました。今年4月より金井祐二先生(現:いわき市立総合磐城共立病院)に代わって増山郁先生が施設担当者として中心となり、スタッフ一丸となって改善行動計画を遂行しています。

1.施設名:福島県立医科大学附属病院 総合周産期母子医療センター新生児部門

2.規模:NICU 9床、GCU 8床

3.スタッフ:

医師6名、看護師35名、クラーク1名、医療事務アシスタント1名、医療助手1名、その他(理学療法士、薬剤師などの出入りあり)

4.医師勤務体制:

通常勤務+当直4-5回/日(当直明けはフリー)

5.看護体制:

3交替(日勤15名、準夜勤4名、深夜勤4名)



6.施設・地域のアピール:

当施設のある福島市は、日本で3番目に広い面積を持つ福島県の北部に位置します。県内は、南北へ連なる阿武隈山地と奥羽山脈によって、中通り(福島、郡山、白河など)、浜通り(相馬、いわきなど)、会津地方の3地域に分けられます。地域毎に、地域周産期医療センターが設置されていますが、当施設は総合周産期医療センターとして、全県から母胎・患児の受け入れを行っており、入院児は未熟児の他、循環器疾患、外科疾患、重症仮死児など多岐に渡ります。

7.どうして研究に参加したか?

病床数に対しての医師数は、比較的余裕を持って配置されていますが、経験年数からみると若手主体に診療を行っており、他施設から学ぶ必要性を感じていました。施設プロフィールにて慢性肺疾患児の乳児期死亡が多い事が分かり、INTACT研究の介入を契機に、急性期・慢性期を通じての一貫した細やかな呼吸管理を目指すきっかけになりました。これから症例毎に検討を重ね、改善を目指す計画です。

8.施設担当者から一言:

震災後、一時は減っていた入院数が元に戻りつつあります。福島で生活を送る児と家族の皆様に寄り添った医療を提供するべく、医療の質改善を目標に頑張りたいと思います。(増山郁)

9.看護担当者から一言:

NICUのスタッフが統一した看護ケア実践を目指して、「吸引手技の見直し」「ポジショニング・ハンドリング技術の向上」「ケアパターンの調整を考慮したケアの実践」「なだめケア・疼痛緩和ケアの実践」を計画し進めています。(高玉郁子)

10.施設長(部長)から一言:

自施設の現状を見直し、行動改善計画を立てるという事が、今回を契機に定着する事を期待しています。(総合周産期センター副部長 桃井伸緒)



三ツ橋偉子、西田俊彦、佐々木八十子、松田直子
東京女子医科大学母子総合医療センター
周産期研究事業支援室
〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1
WEB : <http://www.nicu-intact.org>
TEL/FAX : 03-5269-7444(直通)
official MAIL : nicu-intact@boshi.twmu.ac.jp